

第3章 教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事に伴う試掘・立会調査

第1節 試掘調査

1 調査の経過

教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事が計画された。工事は、正門から附属小学校運動場を経由して校舎に至るルートと校舎周辺で給水管の新設を行うものである。上記について埋蔵文化財資料館運営委員会が審議した結果、試掘調査が必要との判断が下された。上記を受け、埋蔵文化財資料館が平成11年11月15～12月10日に試掘調査を実施した。調査はAトレンチ（5.7㎡）、Bトレンチ（5.7㎡）、Cトレンチ（8.2㎡）、Dトレンチ（6.5㎡）、Eトレンチ（6.1㎡）、Fトレンチ（4.6㎡）、Gトレンチ（11.9㎡）を設定して行った。総調査面積は48.7㎡である。Fig. 16～18では試掘調査区と立会調査区を掲載した。

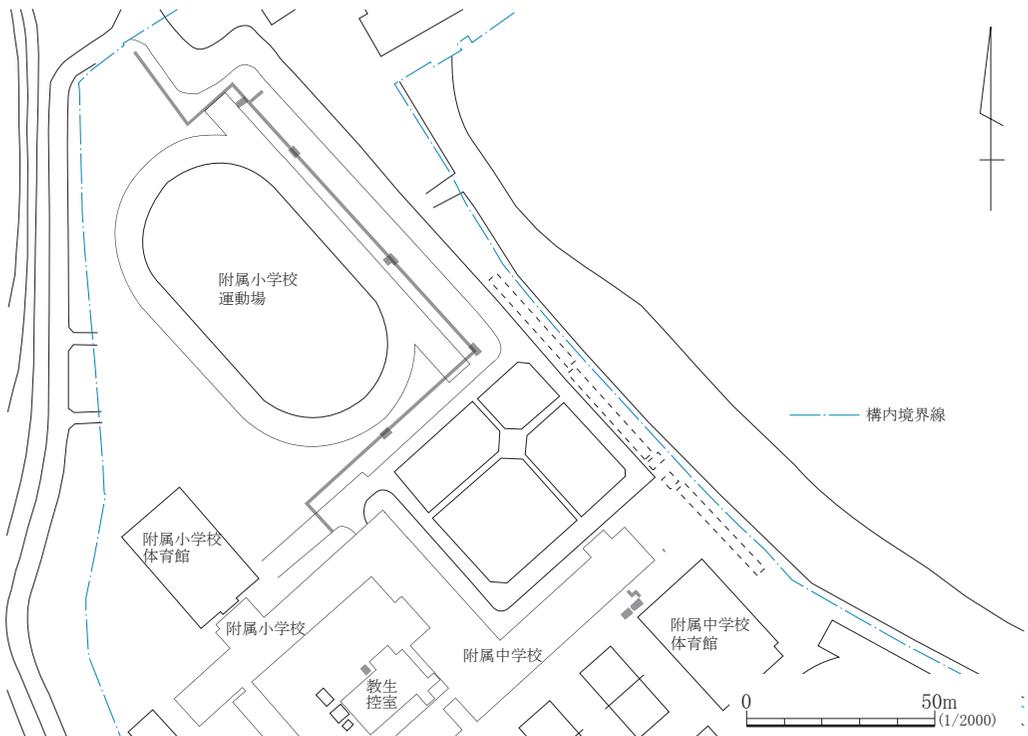


Fig.16 調査区位置図

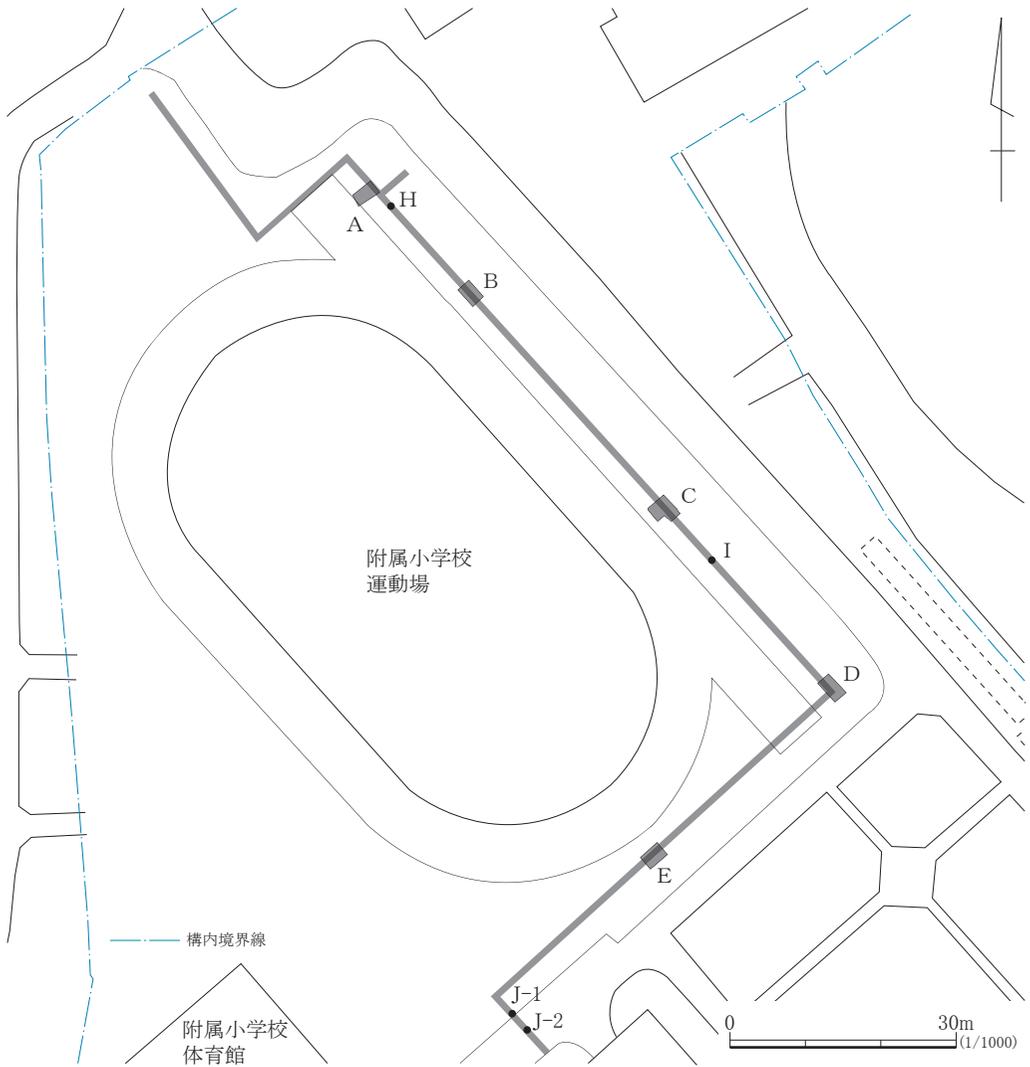


Fig.17 調査区詳細図①

2 層序・遺構

(1) Aトレンチ (Fig.17・19, PL.14)

以下の各トレンチの平面図で示した方位は磁北を示す。また、土層断面図に記載にある層序については、埋土に含まれる礫など、記載の一部を省略する。Aトレンチの層序は、第1～3層：表土・造成土（層厚50～70cm）、第4層：近代遺構面形成層（明黄褐色（2.5Y7/6）粗砂（層厚5～16cm）、第5層：近代遺構面形成層か（褐色（10YR4/4）粗砂（層厚9～25cm））、第6～11層（明黄褐色（10YR6/6・7/6・2.5Y7/6）礫・にぶい黄褐色（10YR5/3）礫・黄褐

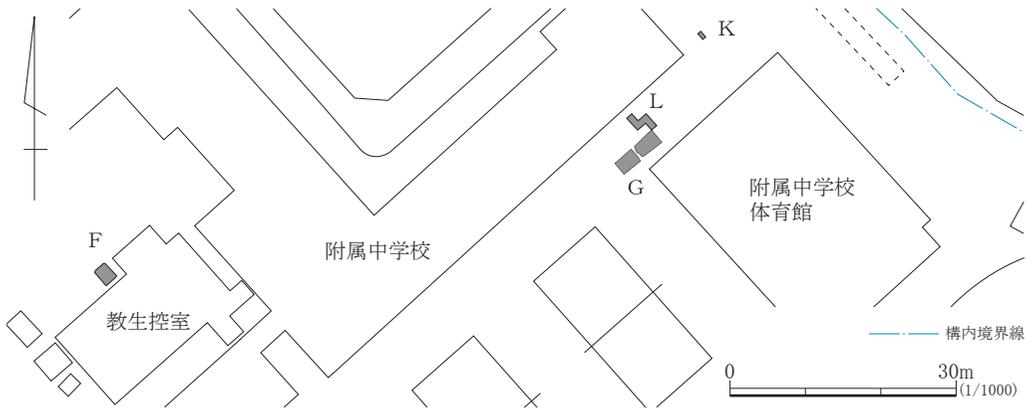


Fig.18 調査区詳細図②

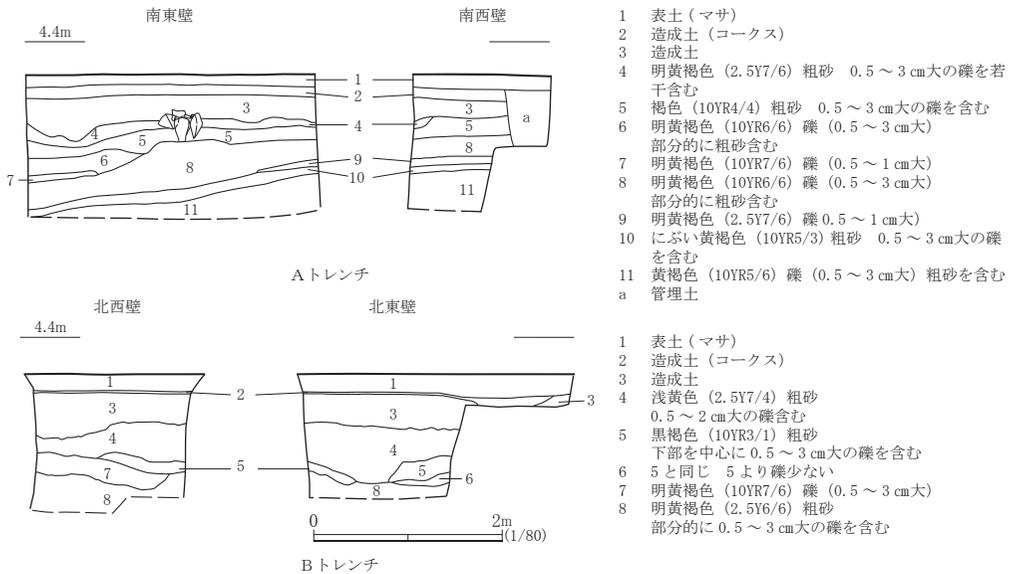


Fig.19 A・Bトレンチ土層断面図

色 (10YR5/6) 礫 (層厚84cm以上) である。南東壁第4層上面で近代の石積を確認した。また、第4層から土器片が少量出土した。

(2) Bトレンチ (Fig.17・19, PL.15)

層序は、第1～3層：表土・造成土 (層厚52～69cm)、第4～8層：古墳時代以前の堆積層か (浅黄色 (2.5Y7/4) 粗砂・黒褐色 (10YR3/1) 粗砂・明黄褐色 (10YR7/6) 礫・明黄褐色 (2.5Y6/6) 粗砂 層厚94cm以上) である。遺構は検出していない。第4層・第5層から土師器片が出土した。

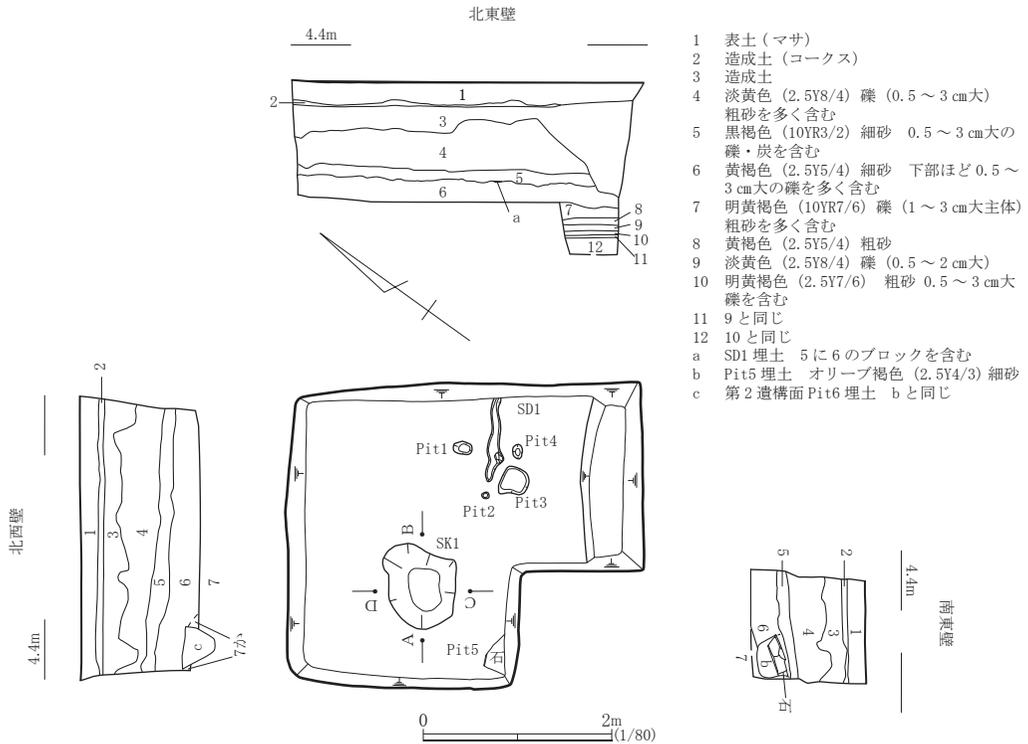


Fig.20 CTレンヂ第1遺構面平面図・土層断面図

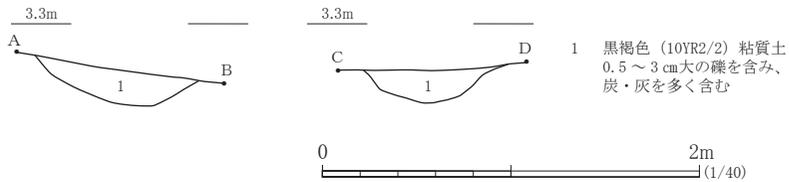


Fig.21 CTレンヂ SK1 断面図

(3) CTレンヂ (Fig.17・20～22, PL.16～21)

層序は下記の通りである。第1～3層：表土・造成土（層厚35～122cm）、第4層：近世～近代の堆積層（淡黄色（2.5Y8/4）礫 層厚9～57cm）、第5層：近世の遺物包含層（黒褐色（10YR3/2）細砂 層厚7～20cm）、第6層：第1遺構面（近世）形成層・古墳時代の遺物包含層（黄褐色（2.5Y5/4）細砂 層厚12～41cm）、第7層：第2遺構面（古墳時代）形成層（明黄褐色（10YR7/6）礫 層厚10～18cm）、第8～12層：古墳時代以前の堆積層（黄褐色（2.5Y5/4）粗砂・淡黄色（2.5Y8/4）礫・明黄褐色（2.5Y7/6）粗砂 層厚40cm以上）。第4層から陶磁器片・鉄製品等、第5・6層から土師器、須恵器、韓式系土器、陶磁器片、鉄製品

が出土した。

第5・6層は厳密に分けて掘削を行うことが困難であった。また、第6層上面が近世の遺構面であるため若干の遺物の混在がある。第6層上面の第1遺構面で近世の溝1条、土坑1基、ピット5基を検出した。また、多数の遺物が出土し、遺物は調査区外にも分布することが確実視されたため、調査区の西側を拡張した(PL.16・PL.17(1))。第7層上面の第2遺構面では古墳時代のピット6基を検出した。

第1遺構面SD1 (Fig.20, PL.16(2)・PL.17(1)(2)・PL.18(2))

最大幅16cm、長さ90cm以上、深さは1.8～5.5cmである。埋土は第5層に第6層のブロックを含む。埋土から韓式系土器(竈形土器 Fig.29-37)と同一個体とみられる破片が1点出土した。

第1遺構面SK1 (Fig.20・21, PL.16(1)(2)・PL.17(1)(2)・PL.18(1)(2)(4))

不整形で平面形89cm×72cm、深さは17cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘質土に0.5～3cm大の礫・炭・灰を多く含んでいた。埋土から礫と磁器碗(Fig.27-1～2)、磁器皿(Fig.27-3)のほか、土師器竈形土器片、陶器片、磁器片、瓦片、鉄製品等が出土した。

第1遺構面Pit1～5 (Fig.20, PL.16(2)・PL.17(1)(2)・PL.18(2)(4))

Pit1は平面形14×20cm、深さ19cm、Pit2は平面形8×9cm、深さ2cm、Pit3は平面形27cm×80cm、深さ4cm、Pit4は平面形11×17cm、深さ約5cmである。Pit5は断面図で確認した。断面幅42cm、深さ33cmで、上面に根石とみられる石が据えられていた。埋土はPit1～4がSD1と同じで、Pit5がオリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂であった。このうちPit1から鉄釘(Fig.33-70)のほか土師器片が出土し、Pit2から摩滅が著しい須恵器甕口縁部片、土師質土器片が出土した。

第2遺構面Pit1～6 (Fig.22, PL.19(1)～(4)・PL.20(1))

Pit1～6のうち、Pit6は第6層下部に礫が多く含まれていた関係で遺構面を明確に判断できなかったが、第7層から掘り込まれたと考えられる。

Pit1は平面形24×28cm、深さ7cm、Pit2は平面形17×18cm、深さ5cm、Pit3は直径35cm、深さ10cm、Pit4は平面形28cm×34cm、深さ8cm、Pit5は平面形44×46cm、深さ16cm、Pit6は平面形25cm以上×42cm、深さ33cmである。埋土はPit1・2が、黒褐色(10YR3/2)細砂(0.5～3cm大礫・炭を少量含む)であった。以下、Pit3が褐灰色(10YR6/1)細砂(0.5～3cm大礫・炭を少量含む)、Pit4が黒褐色(10YR3/1)細砂(0.5～3cm大礫を含む)、Pit5が黄褐色(10YR4/3)細砂(0.5～3cm大礫・炭を少量含む)、

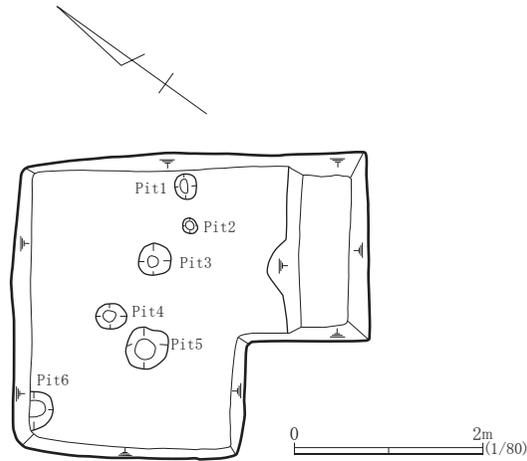


Fig.22 Cトレンチ第2遺構面平面図

Pit6がオリーブ褐色（2.5Y4/3）細砂であった。Pit1・2・5・6から土師器片とみられる土器片が出土した。

(4) Dトレンチ (Fig.23, PL.22 (1))

層序は下記の通りである。第1～3層：表土・造成土（層厚52～96cm）、第4～8層：近世～近代の堆積層か（明黄褐色（2.5Y7/6）粗砂・浅黄色（2.5Y7/3）礫・オリーブ褐色（2.5Y4/4）礫・明黄褐色（2.5Y7/6）細砂・黒褐色（10YR3/1）礫（0.5～2cm大）層厚27～37cm）、第9～17層：古墳時代以前の堆積層（明黄褐色（2.5Y6/6）粗砂・オリーブ褐色（2.5Y4/4）礫・灰黄色（2.5Y6/2）粗砂・黄褐色（2.5Y5/3）粗砂・黄色（2.5Y8/6）粗砂 層厚73cm以上）。遺構は検出していない。第4層から土器片、磁器片、第6層から磁器片、13～16層から土器片が出土した。また、第6～16層掘削時に土器片が出土した。

(5) Eトレンチ (Fig.23, PL.22 (2))

層序は下記の通りである。第1～3層：表土・造成土・攪乱（層厚56～168cm）、第4～12層：古墳時代以前の堆積層か（明黄褐色（2.5Y6/6）粗砂・黄褐色（2.5Y5/6）礫・灰黄色（2.5Y7/2）礫・灰黄色（2.5Y7/2）礫・淡黄色（2.5Y8/4）細砂・浅黄色（5Y7/4）礫・明黄褐色（10YR6/6）礫・にぶい黄色（2.5Y6/4）礫・灰白色（10YR8/1）粗砂 層厚126cm以上）。遺構は検出していない。第11層から土器片が出土した。

(6) Fトレンチ (Fig.24, PL.23 (1))

層序は下記の通りである。第1層：表土・造成土・管理土（層厚51～72cm）、第2～5層：

層序・遺構

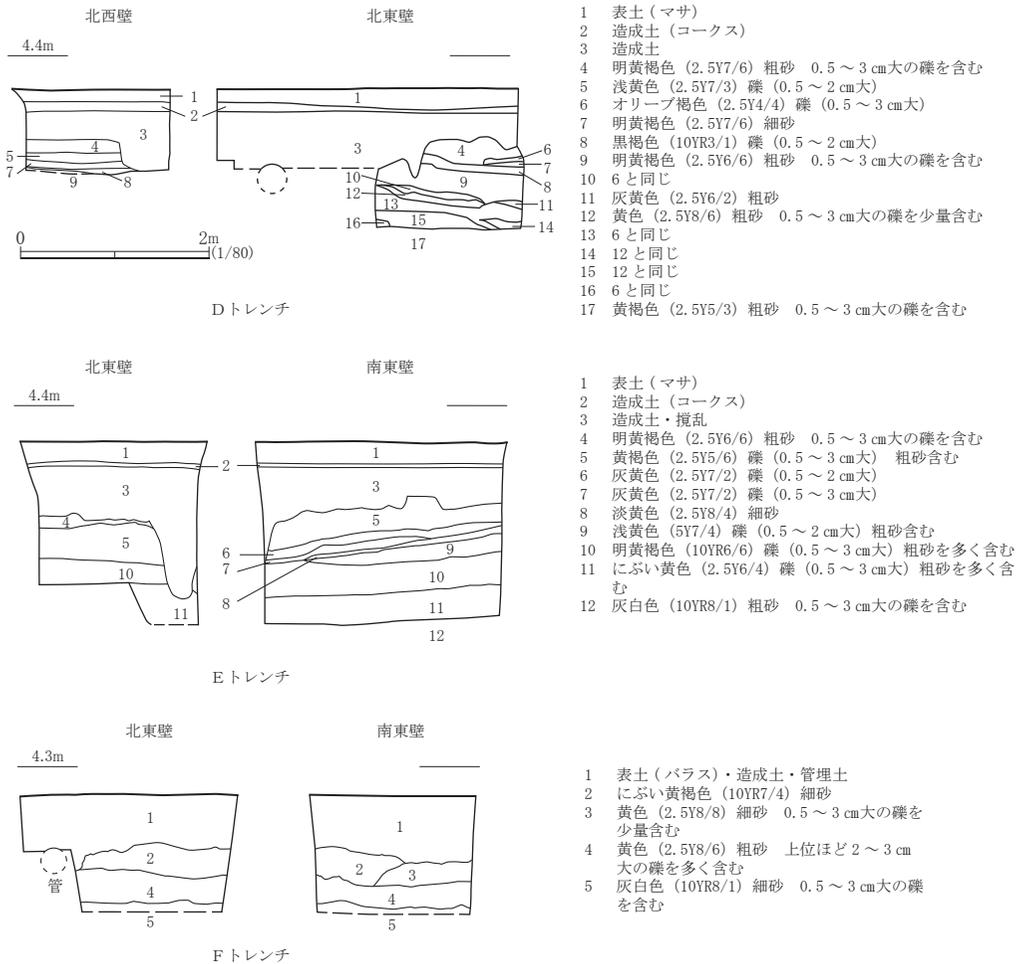
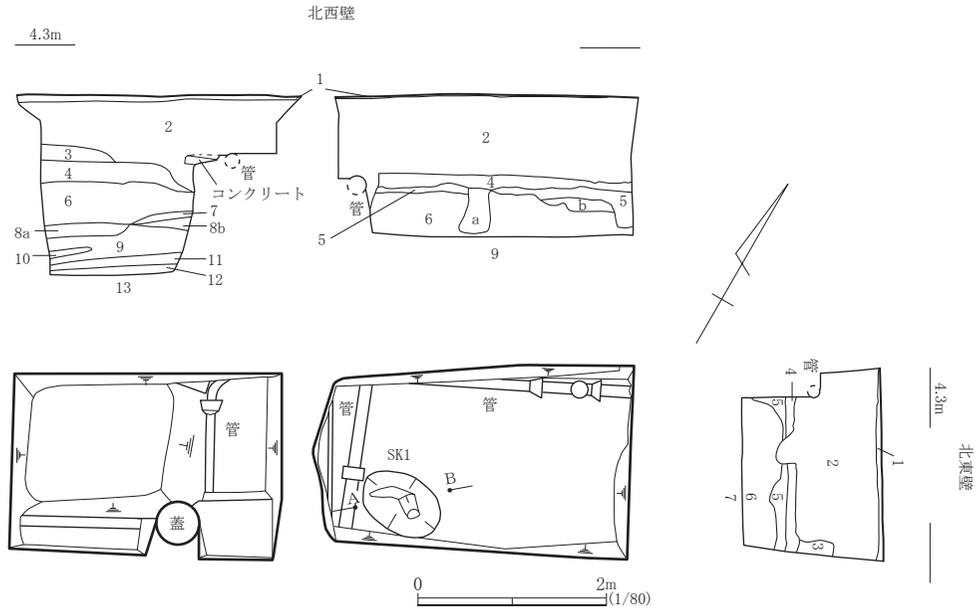


Fig.23 D・E・Fトレンチ土層断面図

古墳時代以前の堆積層か(にぶい黄褐色(10YR7/4)細砂・黄色(2.5Y8/8)細砂・黄色(2.5Y8/6)粗砂・灰白色(10YR8/1)細砂 層厚75cm以上)。遺構は検出していない。第1層から磁器片、土師器片、土器片が出土した。

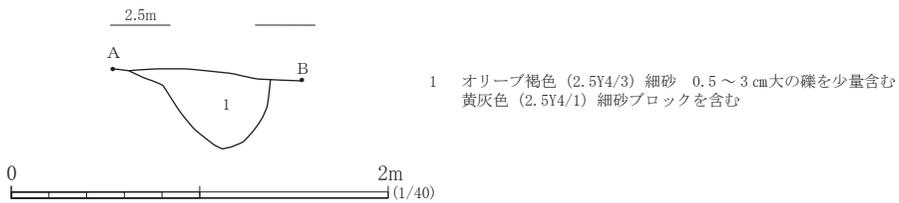
(7) Gトレンチ (Fig.24, PL.23 (2)・PL.24 (1)・(2)・PL.25 (1)～(4))

各種配管により掘削が困難であったことから北東区と南西区に分割して掘削を行った。層序は以下の通りである。第1～2層：表土・造成土・管理土(層厚52～92cm)、第3層：近世～近代の堆積層(黄褐色(2.5Y5/6)細砂 層厚2～18cm)、第4層：古墳時代～中世の遺物包含層(オリーブ褐色(2.5Y4/4)粗砂 層厚22cm)、第5層：中世の遺構面形成層(暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粗砂 層厚2～39cm)、第6層：中世の遺構面形成層(黄褐



- 1 表土（マサ）
- 2 造成土・管理土
- 3 黄褐色（2.5Y5/6）細砂
- 4 オリーブ褐色（2.5Y4/4）粗砂 0.5～3cm大の礫を含む
- 5 暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）粗砂 0.5～3cm大の礫を含む
- 6 黄褐色（2.5Y5/6）礫（0.5～3cm大） 2～3cm大礫主体 粗砂を多く含む
- 7 黄色（2.5Y7/8）細砂
- 8a・8b 明黄褐色（2.5Y7/6）礫（0.5～1cm大）
- 9・12 7と同じ
- 10・11 8a・8bと同じ
- 13 黄褐色（10YR5/6）礫（0.5～3cm大）
- a Pit1埋土 黒褐色（2.5Y2/1）粗砂 0.5～3cm大の礫を含む 下部では第6層をブロック状に含む
- b SK1埋土 暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）粗砂 黒褐色（2.5Y2/1）粗砂をブロック状に含む

Fig.24 Gトレンチ平面図・土層断面図



- 1 オリーブ褐色（2.5Y4/3）細砂 0.5～3cm大の礫を少量含む
黄灰色（2.5Y4/1）細砂ブロックを含む

Fig.25 Gトレンチ北区 SK1 断面図

色（2.5Y5/6）礫（層厚8～51cm）、第7～8層：古墳時代～中世の堆積層（黄色（2.5Y7/8）細砂・明黄褐色（2.5Y7/6）礫（層厚2～20cm）、第9～10層：古墳時代の遺構面形成層（黄色（2.5Y7/8）細砂・明黄褐色（2.5Y7/6）礫 層厚24～33cm）。第11～13層：古墳時代以前の堆積層（明黄褐色（2.5Y7/6）礫・黄色（2.5Y7/8）細砂・黄褐色（10YR5/6）礫 層厚20cm以上）。

北東区の北西壁では第5層上面でPit1、第6層上面でSX1を検出し、北東区では第9層上面でSK1を検出した。また、第3層から陶磁器片など近世～近代の遺物が出土し、第4層から縄文土器片、古墳時代・中世の土師器片が出土した。Pit1から遺物は出土していないが、直上に堆積した第4層の遺物と遺構面形成層から中世と推測する。SX1・SK1は出土遺物と遺構面形成層から古墳時代と考えられる。第11～12層は古墳時代以前の堆積層で、第11層から縄文土器片が出土した。

Pit1・(Fig.26, PL.24 (1))

上面幅24cm、深さ48cm、埋土は黒褐色 (2.5Y2/1) 粗砂で、0.5～3cm大の礫を含み、下部では第6層をブロック状に含む。出土遺物はない。

SX1 (Fig.26, PL.24 (1)・PL.25 (2) (3) (4))

上面幅66cm、深さ14cm、埋土は暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粗砂で黒褐色 (2.5Y2/1) 粗砂をブロック状に含む。出土遺物はない。

SK1 (Fig.25, PL.25 (2) (3) (4))

平面形は不整形で62cm×90cm、深さ41cmである。埋土はオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂に0.5～3cm大の礫を少量含むほか、黄灰色 (2.5Y4/1) 細砂ブロックを含む。土師器の底部 (器種不明) 小片1点が出土した。

3 遺物

以下で、Cトレンチを中心に代表的な遺物を報告する。なお、遺構出土を除く近世以後の遺物については一部にとどめた。

(1) 土器 (Fig.26～32, PL.26～32)

Cトレンチ第1遺構面 SK1 出土土器 (Fig.26-1～3, PL.26)

1は肥前系染付碗の胴～底部。高台外面に1条の圈線を描く。また、見込に蛇の目状の釉剥ぎを行う。18世紀後半。2は肥前・波佐見の陶胎染付碗。外面に唐草文を描く。18世紀前半。3は肥前系の磁器皿底部。見込に蛇の目状の釉剥ぎを行う。18世紀後半。

Cトレンチ第6層出土土器 (Fig.26-4～Fig.32-58, PL.26～31)

第5層出土土器と接合した土器 (Fig.28-35・Fig.29-37) も合わせて報告する。4～9は土師器壺。4・5は同一個体と考えられる小型丸底壺。5は胴部外面にはミガキを施す。判然としないため図示していないが、部分的に丹塗が僅かに残存する。また、焼成後に内面から1箇所穿孔を行っている。内面はナデを施す。6は小型丸底壺の口縁部。内外

面にヨコナデ・丹塗を施す。7は小型丸底壺の頸～底部。頸部外面にはヨコナデ、胴部外面にはタテハケ後にナデ・丹塗を施す。内面にナデを施し、上端付近にも部分的に丹塗が残存する。8は口縁部が直立する長胴の小型壺。外面と胴部内面下半～内底面にタテミガキ、口縁部～胴部内面上半にタテ・斜方向のハケを施す。9は口縁部。口唇部をヨコナデによりつまみ上げ、内外面にヨコミガキを施す。

10～20は土師器甕の口縁部と口縁～胴部。このうち、10・11・13・14・16の内面には口縁部と胴部の境界に明瞭な稜がある。10は口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にはケズリ後ナデを施す。11は口縁部内外面にヨコナデ、胴部外面にハケ、同内面に斜方向のケズリを施す。12は口縁部内面にヨコナデを施す。13は口縁内外面に右上がりのハケ、胴部内面にナデを施す。14は口縁部外面上半、同内面にヨコナデ、口縁部下半にタテハケ、胴部内面にケズリ後ナデを施す。15は口縁部外面にタテハケ後、ヘラ描による文様、内面にヨコナデを施す。16は胴部外面に右上がりハケ後ナデ、同内面に横ケズリ後ナデを施す。17は外面の調整不明。口縁部内面にヨコナデ、胴部内面に右上がりのケズリを施す。18は口縁部を強く折り曲げる。口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にヨコケズリを施す。19も口縁部を強く折り曲げ、内外面にヨコナデを施す。甕としたが、その形状から把手付鍋（ハガマ）である可能性がある。20は胴部にタテハケ後、上半はナデを施す。内面は摩滅する。

21～23は土師器坏。いずれも口縁部は内湾ぎみに立ち上がり、内外面にヨコミガキを施す。

24～27は土師器甕形土器。24は掛口～胴部。掛口は直立する。外面にタテハケ、内面にケズリを施す。底がないことから背面部と考えられる。25は掛口部で、内外面に粗いヨコナデを施す。土師器に含めたが、色調は外面が橙色、内面が明赤褐色で37に色調が近似することから韓式系軟質土器である可能性がある。26は底部・炊口部。付け底で先端を欠損する。底部は接合部で剥離しており、2枚の粘土板を貼り合わせている。内外面にナデを施す。27は底部。付け底で基部が残存する。その形状から正面から見て左側の底と考えられる。接合面で剥離しており、2枚の粘土板を貼り合わせている。ヨコハケ・ナデを施す。

28～44は韓式系軟質土器とその可能性が高いと考えられる土器である。内外面の色調は橙色もしくは赤褐色系が多い。28は甕。口縁部内外面にヨコナデ、胴部外面に格子目タタキ、同内面にタテナデを施す。29～34は甕もしくは鉢の胴部片。いずれも外面に格

遺物

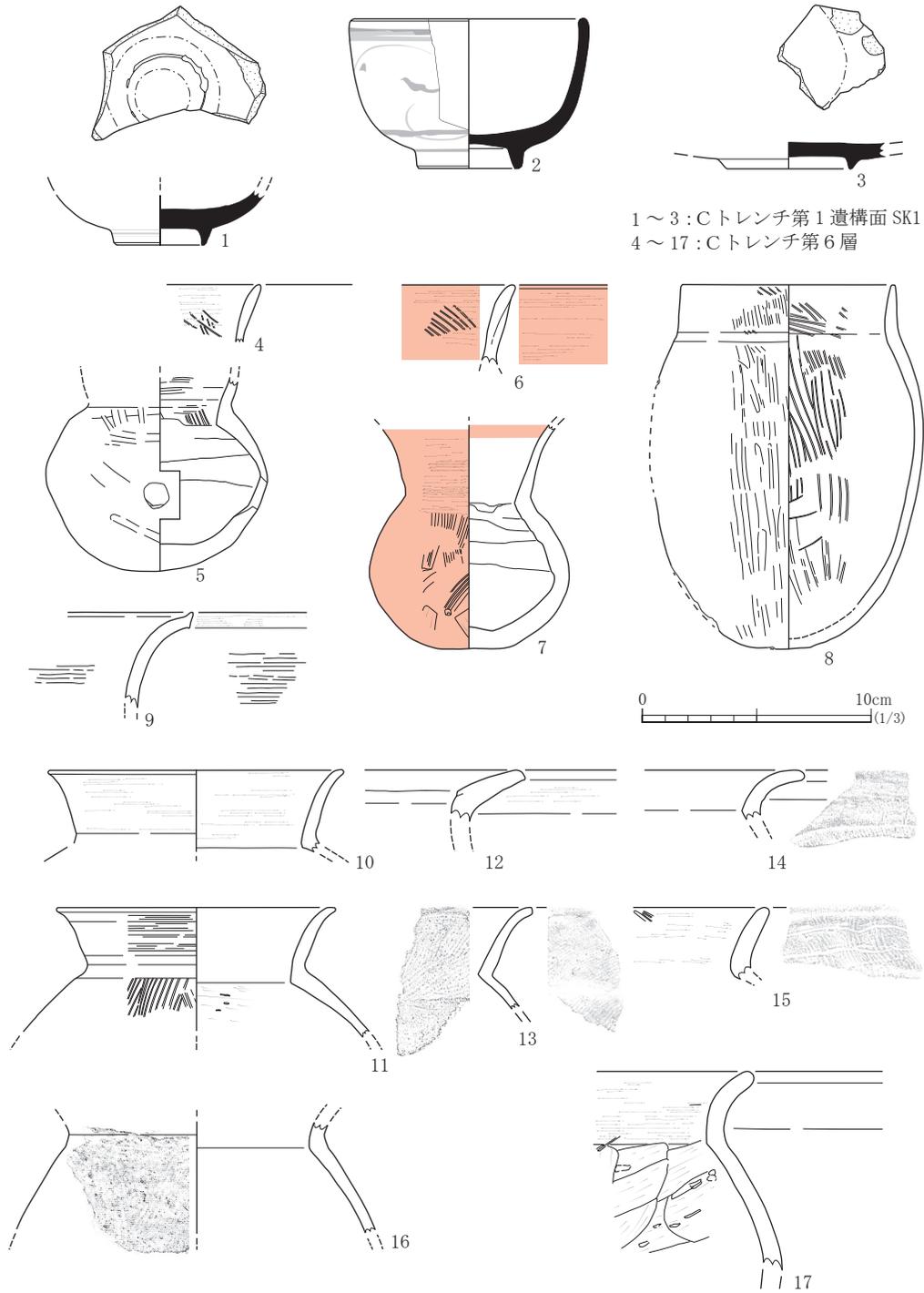


Fig.26 出土遺物実測図①(土器)

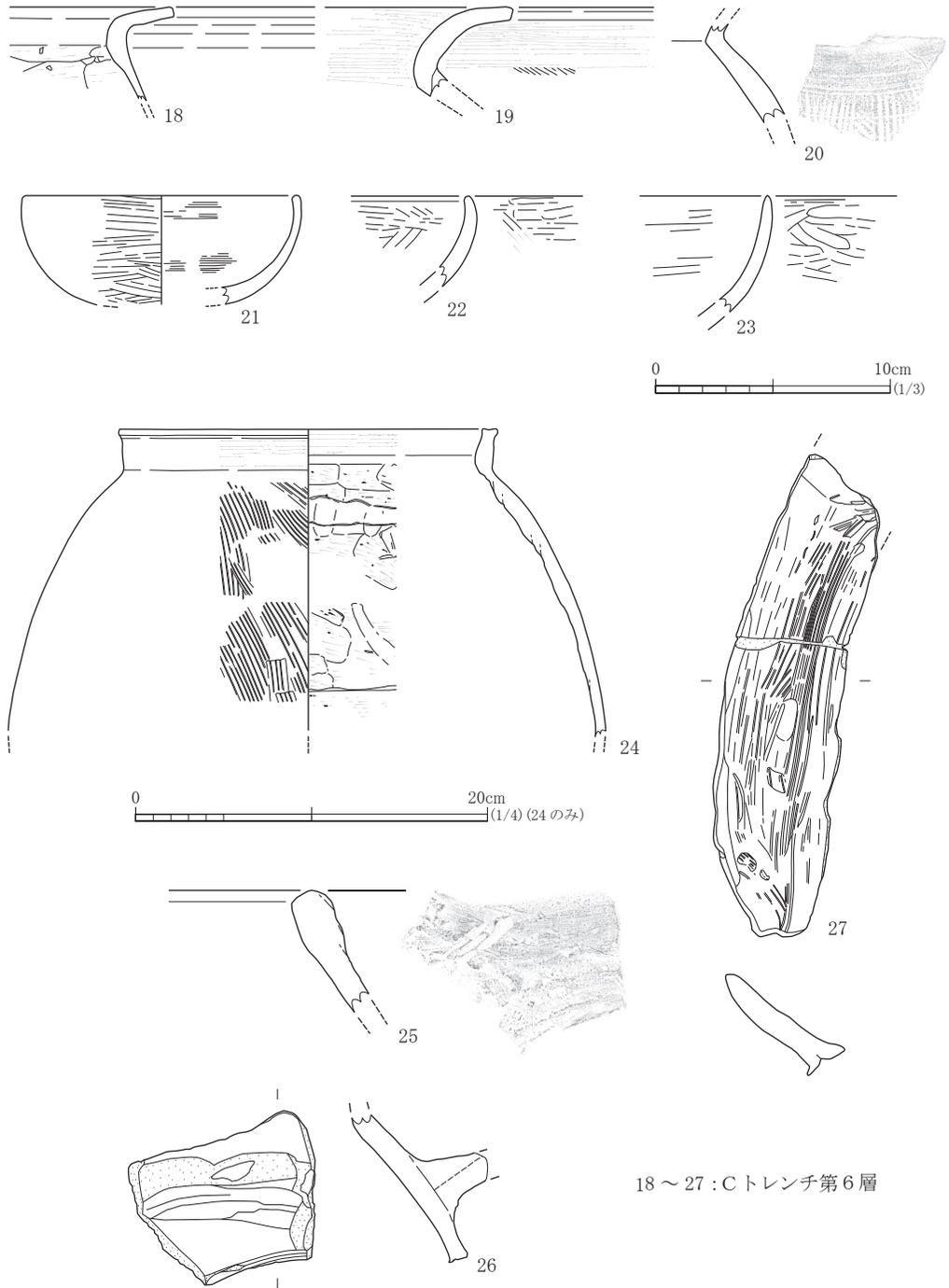


Fig.27 出土遺物実測図②(土器)

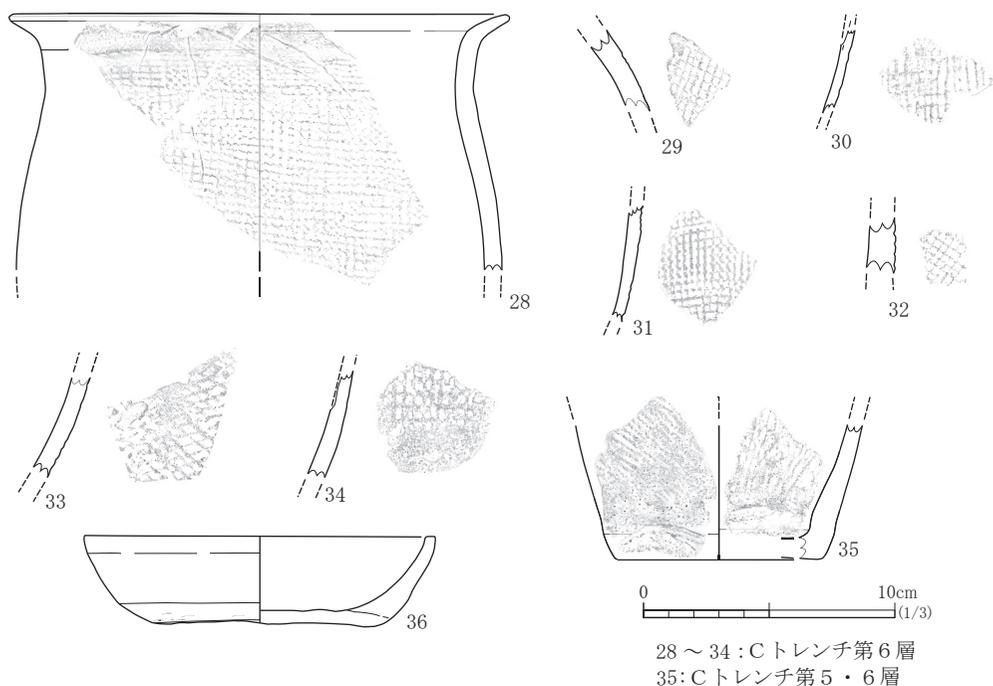
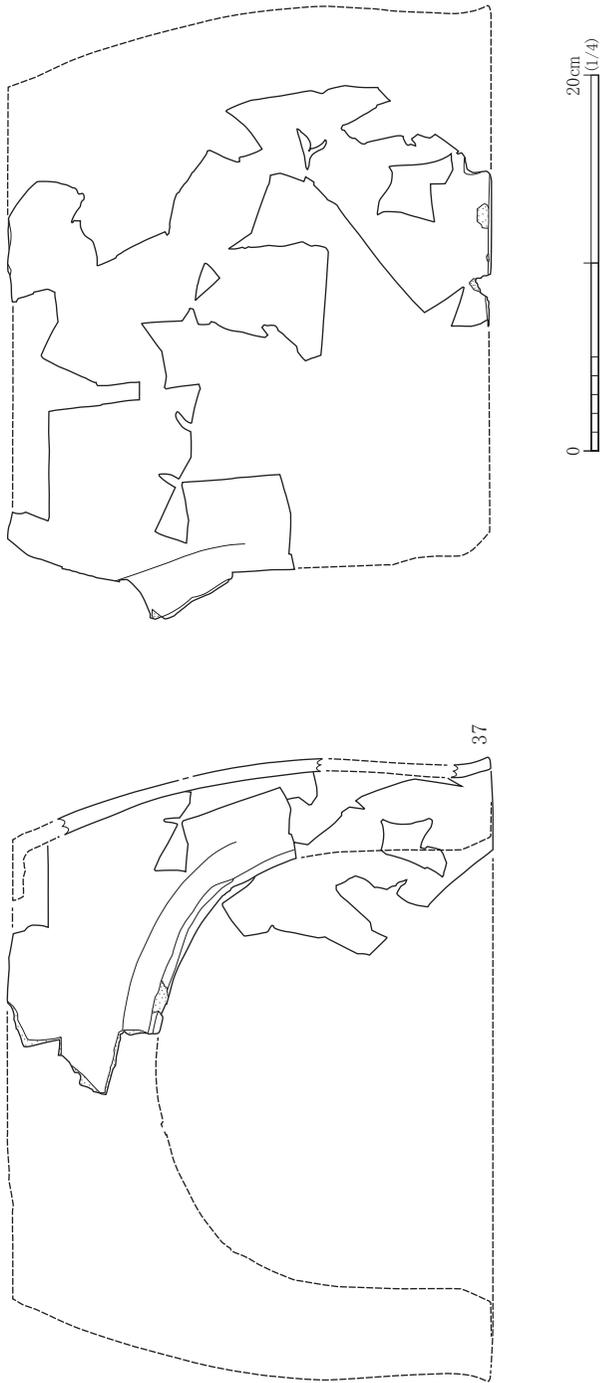


Fig.28 出土遺物実測図③(土器)

子目タタキ、内面にナデを施す。35は鉢の胴～底部。外面に左上がりのタタキを施す。内面には平行当て具痕が残る。36は鉢。平底で口縁部は直立し口唇部に面取りを行う。底部外面にヨコケズリ、他の部位にはヨコナデを施す。底部と胴部の境界に剥離痕がある。

37～44は竈形土器。このうち、色調・胎土・外面調整の鳥足文タタキから37～43は同一個体と考えられる。また、他にも接合しない同一個体とみられる破片が出土している。接合に努めたが調査区外にも破片が分布している可能性が高く、完全に接合することができなかった。上記から今後の再検討を考慮し、石膏による復元は最小限にとどめた。

37は掛口部直下から基部まで残存する。掛口部は接合面で剥離しているが、38のような内面に突出する逆L字形状と考えられる。現状の接合状況で掛口径がおよそ24cm、器高がおよそ25cmに復元できる。外面上端から約2.5cmはヨコ・斜方向のケズリを施す。以下の外面には鳥足文タタキを施す。底は曲げ底でタタキ後に作られており、成形時のナデによってタタキが消されている。タタキは上部が左上がりであり鳥足が開き、基部がほぼ水平で左に鳥足が開いている。同一個体とみられる39で外傾接合が確認できることから、倒立技法で成形されたとみられるが、上記を前提とすれば、成形時に下になる上半では右



37 : C トレンチ第5・6層

Fig.29 出土遺物実測図④(土器)

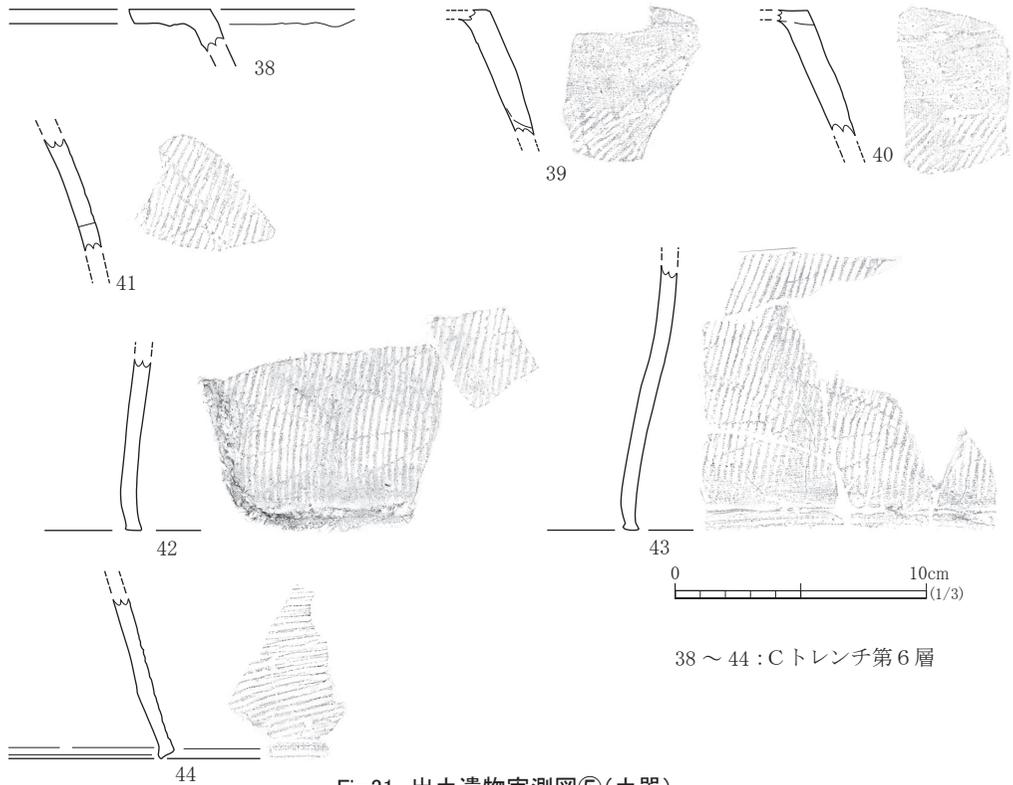
掛口



Fig.30 出土遺物拓影

下がりに鳥足が開き、上になる下半ではほぼ水平で右に鳥足が開くことになり、「叩き締め¹⁾の円弧」の結果と解釈できる。また、鳥足は2～4本に見える箇所があるが、拓本により特徴的な箇所を見ると、基本的に同じ原体が使用されたと考えられる²⁾。内面は、上から約3cmはヨコナデ、基部内面はヨコナデ、その他の部位にはタテナデを施す。色調は外面が橙色・明赤褐色、内面が明赤褐色・赤褐色・橙色で硬質に焼成されており、内外面にススが薄く付着する。なお、把手の位置と形状は不明のため、実測図には記載していない。

38～40は掛口部。38は断面が内面に突出する逆L字状を呈し、外面がヨコケズリ後ナデ、内面に強いヨコナデを施す。39・40は、外面上半にヨコ・斜方向のケズリ、外面下半に鳥足文タタキ、内面上半にヨコナデ、内面下半にタテナデを施す。また39は下半に外傾接合の剥離面、40は掛口部に水平な剥離面がある。41は外面に鳥足文タタキ、内



38～44 : Cトレンチ第6層

Fig.31 出土遺物実測図⑤(土器)

面にタテナデを施す。外面左端がやや盛り上がり、断面に剥離痕があることから、把手付近である可能性がある。42・43は基部で42は炊口部も残存する。いずれも外面に鳥足文タタキ、内面上半にタテナデ、同下半の外反部にヨコナデを施し、端部に面取りを行っている。44は37～43とは別個体の基部。外面に右上がりのタタキ（1条0.5～2.5mm 7.5mm / 3条）、内面に斜方向のナデを施し、端部をつまみ上げている。

45～55は須恵器。45～49は坏蓋で5世紀後半～6世紀前半に位置づけられる。いずれも天井部外面は回転ヘラ削り、他の部位には回転ヨコナデを施す。48は天井部に突起状の付着物がある。50は甕の口縁部。51～55は甕の胴部。51と54は色調・胎土、タタキの原体が近似することから、同一個体である可能性がある。51は外面に平行タタキ（1条3mm 11.5mm / 3条）、内面にナデを施す。外面には自然釉が付着する。52は外面に平行タタキ（1条1～2mm 11mm / 3条）後、横方向カキメを施し、内面には同心円状の当て具痕が残る。53は外面に平行タタキ（1条1.5～2.5mm 8mm / 3条）後、ナデを施し、内面には同心円状の当て具痕が残る。54は外面に平行タタキ（1条2.5～3mm 10.5mm

/ 3条)、内面にナデを施す。外面には自然釉が付着する、55は、外面に格子目タタキ後ナデ、内面にヨコナデを施す。以上の土師器、韓式系土器、須恵器は5世紀後半～6世紀前半に位置づけられる³⁾。

56～58は磁器。56は肥前系の染付碗。18世紀後半以降。高台外面に1条の圈線を描く。57は青磁の香炉。足は1箇所のみが残存だが、三足と考えられる。肥前系で18世紀中頃～後半。外面と内面上半まで施釉し、外底面中央には鉄漿をかける。58は肥前系の染付碗。18世紀後半。外面に草花文を描く。意図的に楕円状に打ち割られている。

Cトレンチ第5層出土土器 (Fig.32-59～66, PL.31・32)

59～61は土師器。59・60は小型丸底壺の口縁部で内外面にヨコナデを施す。61は器種不明の底部。内外面にナデを施し、外面の一部にタタキが残る。

62は瓦質土器の口縁～胴部。鍋か。口縁部はT字状を呈し、内外面にナデを施す。口縁部上面2箇所穿孔し、内外面にススが付着する。

63～65は陶器。63は碗。関西系の可能性が高い。19世紀。外底面は露胎で他は灰釉を施釉する。64は皿。産地不明。18世紀以降。轆轤成形で底面の残存部は僅かであるが、糸切りである。口縁部外面と内面に鉄漿をかける。65は鉢。産地不明。18世紀後半。外底面は露胎で他は灰釉を施釉し、見込に蛇の目状の釉剥ぎを行う。

66は磁器紅皿。肥前系で18世紀。

Dトレンチ第6～16層出土土器 (Fig.32-67, PL.32)

67は須恵器甕胴部。外面に平行タタキ(1条2mm 7.5mm / 3条)を施し、内面に同心円状の当て具痕が残る。

Gトレンチ第出土土器 (Fig.32-68・69, PL.32)

68は第11層出土の縄文土器深鉢胴部。外面に左上がり、内面に横方向の条痕を施す。原体は二枚貝とみられるが摩滅により判然としない。縄文時代後～晩期。69は第4層出土の縄文時代後期末～晩期前葉の浅鉢口縁部。摩滅が著しく調整不明だが、口縁部に1条の凹線がみられる。

(2) 鉄製品 (Fig.33, PL.32)

70はCトレンチ第1遺構面 Pit1 出土の釘。頭部と下端以外には錆が付着し、先端を欠損する。71・72はCトレンチ第6層出土。71は釘で、頭部は逆L字状で先端を欠損する。72は不明切製品。欠損部が多いが断面形は円形である。

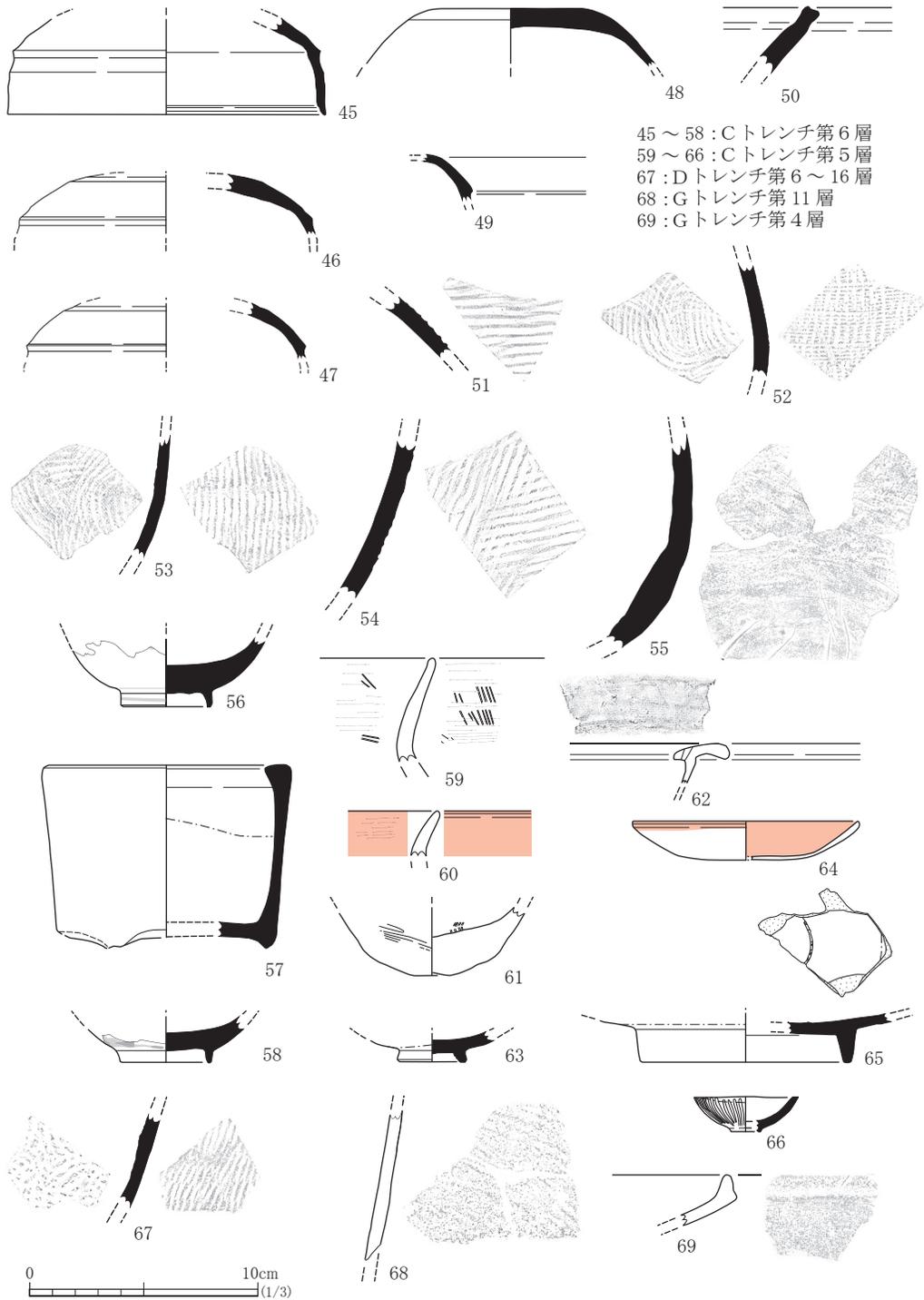


Fig.32 出土遺物実測図⑥(土器)

小結

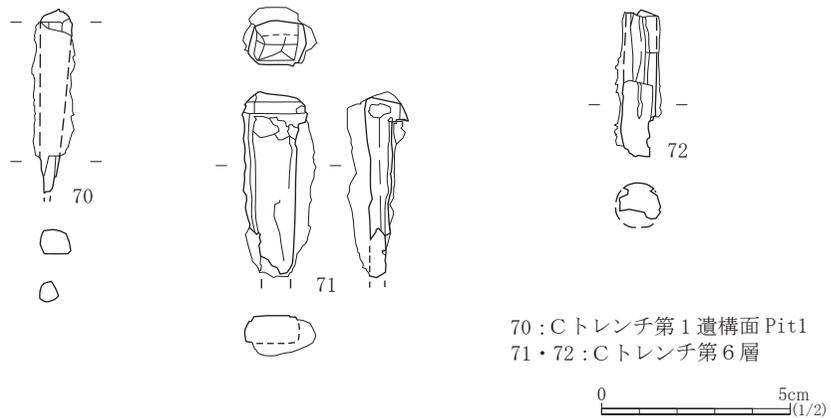


Fig.33 出土遺物実測図⑦(鉄製品)

4 小結

層序・遺構について時期別に述べる。

Bトレンチでは第5層から土師器片が少量出土した。詳細な時期は不明であるが、同層は古墳時代の遺物包含層と考えられる。Cトレンチでは第6層で5世紀後半～6世紀前半の土師器、須恵器、韓式系土器が出土した。また、第7層上面でピット6基を検出した。ピットからの出土遺物は僅少であるが、第6層出土遺物から5世紀後半～6世紀前半と推測される。既報告の附属小学校体育館北東側⁴⁾・附属小学校校舎周辺⁵⁾・附属中学校武道場敷地⁶⁾で検出されている古墳時代の遺構の時期は概ね6世紀後半であり、これらより遡る。一方、光構内北部では下水道接続工事に伴う立会調査区⁷⁾で5世紀後半～6世紀前半を含む古墳時代の遺構・遺物包含層が検出されており、Cトレンチの遺物包含層・遺構との関連が考えられる。また、Gトレンチでは古墳時代と考えられる不明遺構1基・土坑1基を検出し、第11層から縄文土器片が出土した。

Gトレンチ第4層からは縄文土器片、古墳時代・中世の土師器片が出土し、直下の第5層上面で検出されたPit1は中世の遺構と考えられる。

Cトレンチ第5層は18～19世紀の遺物包含層で、第6層上面では溝1条、土坑1基、ピット5基を検出した。このうちSK1からは18世紀前半～後半の磁器が出土した。これらの遺物包含層・遺構は安永年間に設置された室積会所⁸⁾に関連する可能性が高い。また、造成土の直下で検出されたA～Dトレンチ第4層・Gトレンチ第3層は近世～近代の遺物包含層である。Aトレンチ第4層は近代の遺構面形成層で、上面で石積を検出した。

次に出土遺物について述べる。今回特に注目されるのは韓式系土器である。主にCトレ

ンチ第6層から5世紀後半～6世紀前半の土師器、須恵器とともに出土した。韓式系土器はいずれも軟質土器で甕・鉢・甕形土器がある。このうち外面に鳥足文タタキを施す甕形土器（Fig. 29-37）は全形がうかがえるきわめて貴重な事例である。Fig. 29-37は倒立技法で成形されたと考えられるが、その製作技術は大阪府四條畷市所在の葎屋北遺跡から出土した5世紀後半頃の甕形土器と関連がある。これらの甕形土器の外面には縦位平行タタキが残り、天井部が平坦である。その製作技法については「百済の甕の製作技法で作り上げてから、それをひっくり返し、正面に焚口を、上面に釜孔を刳り抜いている。」とされ、「百済の甕の製作技法を応用しながらも百済には存在しないオリジナル品」と位置づけられている¹⁰⁾。Fig. 29-37と上記の甕形土器は掛口側面にケズリを施すことや形態が類似していることから、同じ製作技術の系譜で捉えることができる。詳細な位置づけには、韓式系土器における甕形土器・甕形土器の製作技術全般についての検討も必要である。

Fig. 29-37が出土した第6層は近世の遺構面形成層で上面からは近世の陶磁器も出土していることから、一定の攪乱を受けている。上記から慎重な検討が必要であるが、この甕形土器は丹塗の小型丸底壺とともに出土している点、調査区外を含む範囲で破片が分布しているとみられる点から、祭祀に伴い破砕された可能性がある。また、Fig. 29-37は破片を全て接合できなかったため、実測図は暫定的なものである。Cトレンチ第7層上面で検出した遺構の分布解明と合わせ、Cトレンチ周辺の発掘調査を含めた再検討が求められる。

光構内の御手洗遺跡では立会調査区G地点¹¹⁾、公共下水道接続工事に伴う立会調査区¹²⁾、附属中学校体育館敷地¹³⁾では5～6世紀前半を主体とする土師器・須恵器が出土しており、公共下水道接続工事に伴う立会調査区からは5世紀代の韓式系土器が多数出土している。具体的にどのような施設が存在したのかが不明である点に問題があるが、室積湾は古墳時代における海上交通上の拠点であり、5～6世紀前半の光構内には①正門からCトレンチ周辺の構内北西部、②附属中学校体育館とその周辺を中心とする構内南東部に上記に関連する施設が存在した可能性がある。

以上の調査結果により関連部局と協議した結果、附属小学校校庭における掘削工事の深度は一部を除き70 cm以内にとどめることになった。

[注]

- 1) 佐原真「平瓦桶巻作り」（『考古学雑誌』第58巻2号、1972年）
- 2) 京都大学大学院文学研究科教授 吉井秀夫氏のご教示による。

小結

- 3) 愛媛大学埋蔵文化財調査室講師 三吉秀充氏のご教示による。
- 4) 山口大学埋蔵文化財資料館「光構内教育学部附属光小学校運動場改修に伴う発掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報X』、1992年)
- 5) 山口大学埋蔵文化財資料館「教育学部附属光小学校エレベータ昇降路他新設に伴う試掘・立会調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成15年度－』、2005年)
山口大学埋蔵文化財資料館「教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う本発掘調査・立会調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』、2016年)
- 6) 山口大学埋蔵文化財資料館「光構内教育学部附属光中学校武道場新営に伴う発掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報XII』、1994年)
- 7) 山口大学埋蔵文化財資料館「教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う本発掘調査・立会調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』、2016年)
- 8) 小川国治「近世のひかり－海の利用と大川の効用－」(『光市史』、1975年)
- 9) この甕形土器の製作技法の観点に関しては、京都大学大学院文学研究科教授 吉井秀夫氏にご教示いただいた。
- 10) 寺井誠「新たなものを生み出す渡来文化－「百済のようで百済でない甕」の紹介を通じて－」(『狭山池築造1400年・平成28年度特別展 河内の開発と渡来人－葦屋北遺跡の世界－』、大阪府立狭山池博物館、2016年)
大阪歴史博物館『特別展 渡来人いざこより』、2017年
- 11) 次節参照
- 12) 前掲注7文献
- 13) 福本幸夫「光市における先原史時代の遺跡」(『先原史時代の光市』、1966年)
横山成己「付篇 光市文化センター所蔵の御手洗遺跡出土遺物」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成15年度－』、2005年)

Tab.5 出土遺物観察表(土器)

法量()は復元値

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調 ①外面②内面	胎土	備考
1	Cトレンチ 第1遺構面SK1		磁器 碗	胴～ 底部	4.0			素地：灰白色 釉：透明	精良	肥前系
2	Cトレンチ 第1遺構面SK1		磁器 碗	口縁～ 底部	(10.4)	4.4	6.6	素地：灰色 釉：透明	精良	肥前系 陶胎染付碗
3	Cトレンチ 第1遺構面SK1		磁器 皿	底部				素地：灰白色 釉：明オリブ灰色	精良	肥前系
4	Cトレンチ	第6層	土師器 壺	口縁部				①②にぶい黄色	0.5～1mmの砂粒を含む	5と同一か
5	Cトレンチ	第6層	土師器 壺	胴部～ 底部				①②にぶい黄色	0.5～2mmの砂粒を含む	穿孔1箇所 4と同一か
6	Cトレンチ	第6層	土師器 壺	口縁部				①②にぶい黄褐色	0.5mmの砂粒を少量含む	
7	Cトレンチ	第6層	土師器 壺	頸～ 底部				①②明赤褐色	0.5～2mmの砂粒を少量含む	丹塗
8	Cトレンチ	第6層	土師器 壺	口縁～ 胴部	9.3		16.0	①橙色 ②にぶい黄褐色	0.5～5mmの砂粒を少量含む	
9	Cトレンチ	第6層	土師器 壺	口縁部				①②橙色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
10	Cトレンチ	第6層	土師器 甕	口縁部	(13.0)			①明黄褐色 ②にぶい橙色	0.5～3mmの砂粒を含む	
11	Cトレンチ	第6層	土師器 甕	口縁～ 胴部	(12.2)			①②明赤褐色	0.5～2mmの砂粒を含む	
12	Cトレンチ	第6層	土師器 甕	口縁部				①褐灰色 ②にぶい黄色	0.5～3mmの砂粒を少量含む	
13	Cトレンチ	第6層	土師器 甕	口縁～ 胴部				①暗灰黄色 ②灰黄色	0.5～2mmの砂粒を少量含む	
14	Cトレンチ	第6層	土師器 甕	口縁部				①②にぶい黄色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
15	Cトレンチ	第6層	土師器 甕	口縁部				①黄色 ②にぶい黄褐色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
16	Cトレンチ	第6層	土師器 甕	胴部				①②にぶい黄色	0.5～3mmの砂粒を含む	
17	Cトレンチ	第6層	土師器 甕	口縁～ 胴部				①浅黄色 ②にぶい橙色	0.5～3mmの砂粒を含む	
18	Cトレンチ	第6層	土師器 甕	口縁～ 胴部				①②橙色	0.5～2mmの砂粒を少量含む	
19	Cトレンチ	第6層	土師器 甕	口縁部				①②にぶい黄色	0.5～2mmの砂粒を少量含む	把手付鍋（ハガマ） の可能性あり
20	Cトレンチ	第6層	土師器 甕	胴部				①にぶい黄色 ②にぶい黄褐色	0.5～2mmの砂粒を含む	
21	Cトレンチ	第6層	土師器 坏	口縁～ 胴部	(11.6)			①②橙色	0.5～1.5mmの砂粒を含む	
22	Cトレンチ	第6層	土師器 坏	口縁～ 胴部				①オリブ黄色 ②明赤褐色	0.5～1mmの砂粒を含む	
23	Cトレンチ	第6層	土師器 坏	口縁～ 胴部				①橙色 ②浅黄色・橙色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
24	Cトレンチ	第6層	土師器 甕	掛口～ 胴部	(20.6)			①灰黄色 ②黄褐色	0.5～1mmの砂粒を含む	背面
25	Cトレンチ	第6層	土師器 甕	掛口部				①橙色 ②明赤褐色	0.5～2mmの砂粒を含む	韓式系土器軟質土器 の可能性あり
26	Cトレンチ	第6層	土師器 甕	底部・ 炊口部				①②にぶい黄褐色	0.5～2mmの砂粒を含む	
27	Cトレンチ	第6層	土師器 甕	底部				①②明黄褐色	0.5～2mmの砂粒を含む	
28	Cトレンチ	第6層	韓式系土器 軟質土器	甕	口縁～ 胴部	(19.8)		①②橙色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
29	Cトレンチ	第6層	韓式系土器 軟質土器	甕もしくは鉢	胴部			①②橙色	0.5～1.5mmの砂粒を含む	
30	Cトレンチ	第6層	韓式系土器 軟質土器	甕もしくは鉢	胴部			①②橙色	0.5～2mmの砂粒を含む	
31	Cトレンチ	第6層	韓式系土器 軟質土器	甕もしくは鉢	胴部			①②明褐色	0.5～3mmの砂粒を含む	
32	Cトレンチ	第6層	韓式系土器 軟質土器	甕もしくは鉢	胴部			①②橙色	0.5～2mmの砂粒を含む	
33	Cトレンチ	第6層	韓式系土器 軟質土器	甕もしくは鉢	胴部			①にぶい橙色 ②にぶい黄褐色	0.5～3mmの砂粒を含む	

出土遺物観察表

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調 ①外面②内面	胎土	備考
34	Cトレンチ	第6層	韓式系土器 軟質土器 甕もしくは鉢	胴部				①にぶい橙色 ②にぶい褐色	0.5～3mmの砂粒を含む	
35	Cトレンチ	第5・6層	韓式系土器 軟質土器 鉢	胴～ 底部				①橙色・にぶい褐色 ②橙色	0.5～2mmの砂粒を含む	
36	Cトレンチ	第6層	韓式系土器 軟質土器 鉢	口縁～ 底部	14.0	7.9	3.65	①②橙色	0.5～5mmの砂粒を少量含む	
37	Cトレンチ	第5・6層	韓式系土器 軟質土器 甕	掛口部直下～ 基部				①橙色 ②明赤褐色	0.5～2mmの砂粒を含む	
38	Cトレンチ	第6層	韓式系土器 軟質土器 甕	掛口部				①②赤褐色	0.5mmの砂粒を少量含む	
39	Cトレンチ	第6層	韓式系土器 軟質土器 甕	掛口部				①橙色 ②明赤褐色	0.5mmの砂粒を少量含む	
40	Cトレンチ	第6層	韓式系土器 軟質土器 甕	掛口部				①橙色 ②にぶい赤褐色	0.5mmの砂粒を少量含む	同一個体
41	Cトレンチ	第6層	韓式系土器 軟質土器 甕	把手付 近か				①橙色 ②にぶい褐色	0.5～2mmの砂粒を含む	
42	Cトレンチ	第6層	韓式系土器 軟質土器 甕	基部				①②明赤褐色	0.5～1mmの砂粒を僅かに含む	
43	Cトレンチ	第6層	韓式系土器 軟質土器 甕	基部				①②明赤褐色	0.5～1mmの砂粒を僅かに含む	
44	Cトレンチ	第6層	韓式系土器 軟質土器か	甕	基部			①橙色 ②にぶい褐色	0.5mmの砂粒を含む	
45	Cトレンチ	第6層	須恵器	坏蓋	口縁部	(14.0)		①灰色 ②青灰色	0.5～3mmの砂粒を少量含む	
46	Cトレンチ	第6層	須恵器	坏蓋	天井～ 口縁部			①灰色 ②青灰色	0.5～3mmの砂粒を少量含む	
47	Cトレンチ	第6層	須恵器	坏蓋	天井～ 口縁部			①②灰色	0.5～3mmの砂粒を少量含む	
48	Cトレンチ	第6層	須恵器	坏蓋	天井部			①灰色 ②浅黄色	0.5～3mmの砂粒を少量含む	
49	Cトレンチ	第6層	須恵器	坏蓋	天井部			①②灰色	0.5～1mmの砂粒を僅かに含む	
50	Cトレンチ	第6層	須恵器	甕	口縁部			①②灰色	0.5～3mmの砂粒を少量含む	
51	Cトレンチ	第6層	須恵器	甕	胴部			①オリーブ黒色 ②灰オリーブ色	0.5mmの砂粒を僅かに含む	54と同一か
52	Cトレンチ	第6層	須恵器	甕	胴部			①②灰色	0.5～2mmの砂粒を僅かに含む	
53	Cトレンチ	第6層	須恵器	甕	胴部			①灰オリーブ色 ②青灰色	0.5～2mmの砂粒を僅かに含む	
54	Cトレンチ	第6層	須恵器	甕	胴部			①浅黄色 ②灰オリーブ色	0.5mmの砂粒を僅かに含む	51と同一か
55	Cトレンチ	第6層	須恵器	甕	胴部			①②灰オリーブ色	0.5～6mmの砂粒を少量含む	
56	Cトレンチ	第6層	磁器	碗	胴～ 底部	3.8		素地：灰色 釉：透明	精良	肥前系
57	Cトレンチ	第6層	磁器	香炉	口縁～ 底部	(10.5)		素地：灰白色 釉：緑灰色・赤褐色	精良	肥前系
58	Cトレンチ	第6層	磁器	碗	胴～ 底部	4.0		素地：灰白色 釉：明緑灰色	精良	肥前系
59	Cトレンチ	第5層	土師器	壺	口縁部			①にぶい黄色 ②にぶい褐色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	
60	Cトレンチ	第5層	土師器	壺	口縁部			①にぶい褐色 ②にぶい黄色	0.5～1mmの砂粒を少量含む	丹塗
61	Cトレンチ	第5層	土師器	不明	底部			①にぶい黄褐色 ②にぶい浅黄色	0.5mmの砂粒を少量含む	
62	Cトレンチ	第5層	瓦質土器	鍋か	口縁～ 胴部			①②黒褐色	0.5～3mmの砂粒を含む	内外面スス付着
63	Cトレンチ	第5層	陶器	碗	胴部～ 底部		2.9	素地：浅黄色 釉：淡黄色	精良	関西系か
64	Cトレンチ	第5層	陶器	皿	口縁～ 底部	(9.9)	(3.1)	1.75 素地：暗赤褐色 釉：明赤褐色	0.5mmの砂粒を僅かに含む	
65	Cトレンチ	第5層	陶器	鉢	底部		(9.3)	素地：橙色 釉：灰白色	精良	
66	Cトレンチ	第5層	磁器	紅皿	口縁～ 底部	4.6	1.3	1.55 素地：灰色 釉：灰白色	精良	肥前系
67	Dトレンチ	第6～16層	須恵器	甕	胴部			①褐灰色 ②暗灰色	精良	
68	Gトレンチ	第11層	縄文土器	深鉢	胴部			①にぶい褐色 ②黄褐色	0.5～4mmの砂粒を多く含む	

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	備考
								①外面②内面			
69	Gトレンチ	第4層	縄文土器 浅鉢	口縁部				①褐色 ②黄褐色	0.5～3mmの砂粒を多く含む		

Tab.6 出土遺物観察表(鉄製品)

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
70	Cトレンチ 第1遺構面Pl1		鉄釘	4.84	0.86	0.65	7.07	
71	Cトレンチ	第6層	鉄釘	4.74	1.5	1.17	20.06	
72	Cトレンチ	第6層	不明	3.9	1.1	0.87	7.18	

第2節 立会調査

調査地区 光構内

調査期間 平成12年2月7・14・21日・3月3日

調査面積 179.3 m²

調査結果 (Fig.17・18・34, PL.33・34)

給水管新設工事に伴い、立会調査を行った。地点名は試掘調査からの連番である。以下各地点の調査結果について報告する。

H地点の層序は現地表下約60cmまでが表土・造成土、以下60～70cmが黄褐色細砂で、同層上面で佐野焼の甕を使用した埋甕 (Fig. 34-2) を検出した。検出した平面形は43cm×50cm、深さは約20cmである。埋土は貝殻を含む造成土（黒褐色土）で、同一個体とみられる口縁部 (Fig. 34-1) や胴部片が出土した。内面に石灰質が付着することから便壺であった可能性がある。検出面、口縁部形態から19世紀後半の遺構と考えられる。

I地点の層序は現地表下30cmまでが造成土で、以下30～64cmが淡黄色 (2.5Y8/4) 礫、64～84cmが黒褐色 (10YR3/2) 細砂、84～100cmが黄褐色 (2.5Y5/4) 細砂、100～120cmが灰黄褐色 (10YR4/2) 砂、床面が明黄褐色 (10YR7/6) 粗砂であった。黒褐色砂上面で近代とみられる石積を検出した。また、灰黄褐色砂から土師器片 (Fig. 34-3・4) が出土した。

J-1地点の層序は現地表下39cmまでが造成土で、以下39～113cmが暗黄褐色砂礫、110～123cmが明黄褐色砂礫、床面が淡黄色砂であった。床面から直径14cmのピットを検出した。埋土は黒褐色砂である。掘削は行っておらず遺物は出土していない。